

2 小学校低学年用「吉野地方のわりばし」 指導例

割りばしの発祥の地と言われる吉野地方では、建築材として使われた杉等の残材を有効利用して割りばしが製造されてきた。本資料は、低学年児童を対象に、丹精込めて育てた木材を無駄なく使うために工夫されてきた吉野地方の割りばし作りを取り上げ、物を大切にすることについて考えさせることをねらいとして作成している。

導入では、可能であれば実際に割りばしを見せ、資料への興味・関心を高めたい。展開前段では、おじいさんの話を聞いた主人公の気持ちの変化について話し合うことを通して、物を大切にすることを自分の生活とつなげて考えるようになった主人公に共感させたい。さらに、展開後段では児童自身の普段の生活を振り返らせ、身の回りの物の使い方について考えさせたい。

- ◆ **主題名** 物を大切に 指導内容 低1-(1)
- 資料名** 吉野地方のわりばし (奈良県郷土資料 県教育委員会)

◆ ねらい

杉を無駄なく使う吉野地方の割りばし作りのことを知り、身の回りの物の使い方を振り返る主人公に共感させ、物を大切にしようとする態度を養う。

◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、割りばしを見て話し合う。	○ これは何か知っていますか。 ・割りばしだ。 ・少し大きいな。	・実際に杉の割りばしを見せ、資料への興味・関心を喚起する。	割りばし
展 開	2、資料「吉野地方のわりばし」を読んで話し合う。	○ おじいさんの話を聞きながら、コウジはどんなことを思っていたでしょう。 ・木がもったいないから作られたなんてびっくりしたな。 ・昔の人はすごいな。 ○ どうしてコウジは、少しはずかしくなったのでしょうか。 ・まだ使えるのに、新しいノートをねだったことを思い出したから。 ・割りばし作りが木を大切にしているのにくらべて、自分は物	・挿絵などを見ながら吉野地方の割りばしがなぜ作られるようになったのかを押さえ、先人の知恵や工夫に気付いた主人公に共感できるようにする。 ・主人公と同じように思ったことがあるかを児童に問うなどして、児童が主人公の立場に立ってじっくりと考えられるようにする。	

